

刊夕日四十月一十

常警每日新聞

定額 一円 郵費 二角五分
廣告料 五円 二行 一円 一行 五角
日曜 祭日の翌日 休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社



今昔同軌

(一)

僧俊寛山が平家討滅の謀り事破れて、鬼界ヶ島に流された治承元年は親鸞聖人五歳の御時であつた、俊寛の怨靈の祟りであつたらうか奢る平家はこの頃からだん／＼左前となつて程なく福原遷都となり、京を失ふた京洛の巷は人散り、家すたれ、おまけに飢饉が續き疫病が流行してその惨状は目も當てられなかつた、乞食は道にすらなかり、屍の臭ひは街衢にみちて息の絶えたる母親の乳房に泣きすがる乳兒の姿さへあつた、仁和寺の法師隆曉が同學の法師と共に屍の首の見ゆる毎縁として歩きたるに一條より南九條、京極より西、朱雀より東のあいだに首の數四萬二千三百もあつたといはれる。まして諸國の慘状は如何あつたであらうか。

の興盛を見るに至つたことは固より然るべきところであつた。それから時代は七百年を超えて世は昭和の御代に入つた、科學の進歩は驚嘆といふさへおろかであるが、それ程に進む人智の力を以てして果たして人の心はその求むるまゝの平安さを得てゐるであらうか

ノート

毎部就寝 時に温石を布でつゝ

み後頭部につけて寝ますと毛髪がふえるばかりでなく神經衰弱や腦のわるい方にも効果があります。この療法で神經衰弱もケロリとわすれます

人々はその名利を欲するが如くに各自の心の平安さを願ふてゐない筈はない、科學の力は欲して與へられざるは無いほどであるも、人心の不安きは七百年前の昔に比して果たして何れであらうか。

文明開化のお蔭で、飢饉も疫病も即時に退治されるそれは概ね金力によるので

建國

いろはかるた 建國祭本部發表

- (い)一の帝は神武天皇
- (ろ)齒籥も静かに天皇旗
- (は)はるかに拜む二重橋
- (に)匂ふ櫻に香る菊
- (ほ)本家は菊の御定紋
- (へ)平和の光りは日本から
- (と)永久に皇國を伊勢の大神
- (ち)散りて護國の神となる
- (り)立派に咲かせよ國の華
- (ぬ)抜けば玉散る日本刀
- (る)るりの玉より大和だま
- (を)ををしき姿神功皇后
- (わ)和氣清麿宇佐八幡
- (か)神風護る筑紫鴻
- (よ)代々木の宮は明治の帝
- (た)竹の園生の末は民草
- (れ)歴史を香る三千年
- (そ)祖國を守る氣は一つ
- (つ)つとめは重く身は輕し
- (ね)寝てを眼も心にしたすき
- (な)波に親しむ海國男子
- (ら)樂は身の毒國の賊
- (じ)昔楠木今は乃木
- (う)梅の香高き紀元節
- (ぬ)維新の大業五條の誓
- (の)昇る旭にかがやく御旗
- (お)大きな家族日本國
- (く)國の御寶三種の御神

- (や)八咫の鳥の道しるべ
- (ま)ますら武夫の梓弓
- (け)煙見給ふ仁徳天皇
- (ふ)富士はそのまき御國の姿
- (こ)心清むる五十鈴川
- (え)枝葉は我等君は幹
- (て)天に日輪地は天子
- (あ)天津日嗣は千代八千代
- (さ)三條の橋に高山彦九郎
- (き)君と民との心は父子
- (ゆ)ゆはずにとまる金の鶴
- (め)恵みあまねく民草繁る
- (み)美々津の濱の搦き入丸圍子
- (し)四十七士は士道の鑑
- (る)繪と歌とたたへる手柄
- (ひ)ひらく岩戸にさす光
- (も)もつて生れた大和魂
- (せ)正義の劔曇りなし
- (す)末の末まで動かぬ日本

常警歌壇 林 正一

寫眞を撮ると並らびし少女等の顔によろしも山頂の陽は照る

遠つべは霧かゝりて見えざるを後世悲しき故と云ふおきなほも

旭硝子株式會社製品 赤菱印 板ガラス

子壘 子菓 硝子食器

松崎硝子製作所 平町新川町(電話一四二番) 仙臺市榮町(電話五九七番)

玉屋洋品店 平町田町通(電話六五六番)

胃腸病妙藥

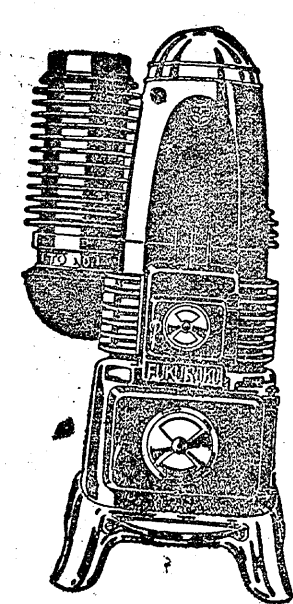
昔ハ料理ニ必ズ「シ、茸」ヲ用タリ今ハアマリ使ハズ甚不都合ノ次第ナリ「シ、茸」ヲ煎ジ臥寝前ニ服用スレバ胃腸ヲ整へ便通正シク氣分爽ナリ諸病ヲ未然ニ防グ効能アリ人助ノ爲メ廣告ス此ノ秋は茸類ノ出ル時節ナレバ新茸程効能著シ各家庭ニテ百枚位ツ、常備シ置ク事肝要ナリ

外科專門 木村外科醫院 平町五丁目橋際 電話三〇九番

嚴冬の征服者 福祿ストীব 戸毎に福祿! 四海は常春!!!

電話三七番へ

阿部石炭商店 平停車場前



月曜言論

音樂會管見

郡下音樂會を聞く

兒童唱歌會は學校に於て催される時、一は兒童自身の學業の一端を發表し、また輕い意味の餘興化との二様の目的に考察が出来る、日頃學習したる音樂教育そのもの、成績が如何なる程度まで徹底し効果的に取扱はれてゐるかを公衆の面前に發表し、夫れ等の批判を求めて長所を助長せしめ短所の改善を計る上には教育的且つ藝術的なる二様の要素が含有されねばならぬ、夫れ故に演奏曲目は大体に於て既習歌曲中より選出する事は是とし、殊更に音樂會の爲に新曲を教授し技巧的手腕にのみはしつて多くの時間をつぶし、其の多大な勞力を浪費して唯單に生徒も先生も大喝采を待つのみであつては餘りに意義が無過ぎる。

吾々は形式に流れ出すリズムよりも内容的に内面的に心をむくむの美のしたゝりに陶醉する事が最も尊いものではないかと思ふ、故に演奏態度は殊更らゝしく流れてはならぬ、學業の一端として發表する音樂會は眞面目さと純真さで終始し教育的に又藝術的に優れた効果を擧げる事を忘れてはならぬ、美を求めて歩む兒童は稍もすれば外形的に流れ、虚榮心を助成し、自惚心を誘發される事が多

これは却つて教育上の大なる障害を來すもので誠に憂ふべきことである、吾々は兒童が俗惡趣味をもつて満足するのを見たのみでは眞に藝術的の感銘を受け、美の世界に逍遙し、美の教養を深く感じ得たものとして推賞するに甚だ憐れさを感じず居られぬ、今後斯種會合には各校が此の點に關しての留意を筆頭に附せざる様切願したい。

新記録續出し

兒童の競技向上

平第一校のレコード決定

既報平第一小學校にては去る九日より四日間兒童の標準レコード作成の爲め全校兒童の競技を續行したが其の結果各學年の最高記録は左の如くにて新記録續出し成績頗る良好であつたと

◎印は新記録

- (五十米)八、〇尋一◎川崎繼男(百米)一六、四尋二◎田山弘平 一六、八同◎關原進 一五、四尋三◎新妻唯男 一五、四尋四金子博 一五、二尋五佐藤喜一 一五、二同塚本正光 一四、一尋六佐藤喜一 一三、六高一◎瀬戸利雄 一三、二高二齊藤武男(二百米)三六〇尋四金子博 三四、六尋五阿部洪祐 三三、五尋六佐藤喜一 三三、一五高一瀬戸利男 二七、四高二◎齊藤武男(四百米)一一、三八高一瀬戸利男一五、四四高二◎齊藤武男(四百米リレー)一九、二三年 一八、四四年 一四、八五年(八百米リレー)二一、七二〇五年二

装甲自動車献金

町村割當額決定

既報石城郡町村長支會は十二日平町役場會議室に於いて總會を開き鈴木小名濱町長より過般出縣陳情した匡救土木事業補助費に就いての報告あり後装甲自動車建造資金に就いて協議の結果

教育部會總集會

昨日平第一小學校にて

既報石城教育部會總集會は昨日午前十時より平第一小學校講堂に於て水野縣視學臨席の下に開かれたが出席者四百名先づ部會長會我直治氏の開會の辭に始まり國歌合唱勸語捧讀等あつて議事に入り來年四月より縣教育會館建設の附を要する爲

午後三時閉會した(農村と勞作教育)小川黒木喜一(自力更正と教授確立)田人石山格道(小

中央大學競技部を

迎へて入山が健闘

廿五對廿二の差を以て入山側勝をゆづる

石城郡湯本町入山炭礦陸上競技部では昨十三日午後一時より同礦グラウンドに學生競技界の中堅を以つて目する、中央大學競技部員を迎へ力戦したが中央チームの陣堅く廿五對廿二の差を以つて入山惜敗した當日各種目優勝者の記録は左の如くである

法曹野球

辯護士側惜敗

既報平法曹團にては去る十二日午後一時より平商グラウンドに於て野球の發會式を舉行後中島監督判事の始球式に依り裁判所對辯護士側の試合を行つたがメンバーは左の如く五A對四のスコアにて裁判所チームが辛勝した

準決勝に

高月大勝

昨日の磐陽戦

既報磐陽野球大會は昨日午前九時より磐中磐炭兩グラウンドに於て開催戦績は左の如く來る二十日午後一時より磐中グラウンドに於て決勝

學校長會に本縣代表として出席を命ぜられたと

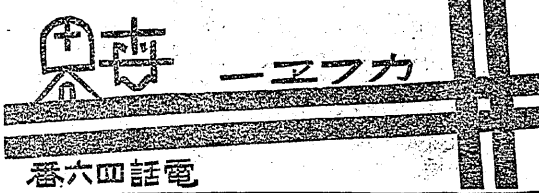
南町對胡摩澤軟式野球決勝

平町青年團各分團對抗第二回軟式野球大會の南町對胡摩澤決勝戦は來る二十日午前十時より第一小學校グラウンドに於て行ふと

平町人事

△出 生 回出 生 △紺屋町一八 當時東京市大森區久ヶ原町五三〇横田勳氏三女壽美子 △死 亡 回 亡 △立町九二 阿部昭平(四ツ) △櫻町一 小川キヨ子(一四)

喫茶 食事



電話四六番

原料品暴騰

來月一日から 醬油小賣値上

石城醬油醸造組合では昨十三日午後一時より住吉屋本店に就いて總會を開き原料品暴騰の結果止むなく從來の小賣値段より一升到付五錢の値上をなし十二月二日より實行する事に決定した

五ヶ年無欠勤訓導

先崎清氏に感謝状

平第二小學校保護者會評議 第一回縣下兒童圖書展覽會に夫々出品したが入賞兒童は左の如く決定された
△第一小學校 一年根本孝三郎 二年吉田敬治 三年阿部武司 六年名尾卓朗
△第二小學校 二年大嶺悦 五年秋元キヨ
△第三小學校 三年松崎惣兵衛 四年林清子

圖書展の入賞兒童

既報平町小學校にては去る十一月より三日間本縣男子師範學校に於て開催され

お尋ね者の...

湯屋荒し捕る

犯行十一件自白

石城郡玉川村字大原地内で去る十二日午後四時頃路上の自轉車から荷物を窃取せんとする男を駐在所員が取り押へ本署に引致取調べると同人は湯本町字三函一〇三

小學校増築

小名濱の町會

石城郡小名濱町會は本日午前八時より開會左記議案を附議した
△縣稅海面漁業稅賦課決定の件
△小學校増築に關する件
△商港問題に關する件
△納稅組合規定設立に關する件

風呂場の水で

ヤット消火

平町久保町二七車大工竹石常衛左門方物置より昨十三

逃げた女房

意外にも人妻

結婚詐欺だと平署へ告訴

平町彌宣町居住無職吉成辰次郎(○)は本年九月中隣家に住む磐城炭礦平發電所雜役國井豊吉(○)の女房に金成キヨ(○)なる婦人を世話し相當の謝禮を受つたがキヨは去月下旬突然行衛を晦して了つたので國井はその行衛を尋ねた結果同女は意外にも西白河郡古關村字關邊居住の野内廣吉の妻フヂ(○)と判明したので是れは結婚詐欺であると此程平署に訴へ出たので目下同署で取調中

一町内から 一度に百廿餘名

流石に關加井嶽も驚く

平町長橋町二十日會主催關加井嶽參詣團は昨日參加者百廿餘名が壽司詰めに分乘した大バス中バス等六臺を連ね頼る壯觀を呈したが僅か一町内から百廿餘名もの多數が一度に登山せる如きは曾つてなき盛觀

泊りがけの 賭博開帳

石城郡内郷字大字綴字後尻

明日のラジオ

十五日

今夜は北東の風、小雨明日は北西の風晴たり曇り

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
兒童劇「鐘の音」熊本市出水小學校兒童
後七、三〇 産業ニュース
後八、〇〇 聖上陛下行幸記念特輯プログラム
「産業歌」大阪商大グループ「御田植歌」官幣大

明日の部

前九、一〇 料理献立「鮎鱈の味噌汁」宮城縣社會課
前一〇、三〇 家庭講談「羽子板の押繪」二 大妻コタカ
後一、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」豫備日
後二、〇〇 家庭大學講座「明治の文學觀念小説と

貧困者妊婦を 無料で取扱ふ

石城産婆會が協議

石城産婆會では来る十五日午後一時より平署會議室に於て役員會を開き貧困者妊婦の無料取扱に就いて協議すると

平職業紹介所報告
△人を求める方
▽採炭夫 三十五才以下
尋卒 給料請負(内郷村某)
△書籍外交員 五十才迄
高卒 給料歩合(平町某)
△女中 三十五才以下 尋卒 給料面談(平町某旅館)
△雜夫 二十五才 尋卒 月八圓(四倉町某)
△回職を求める方
△印刷機械工 十六才 中學半退 給料面談(内郷村某)
△出前持 二十才 高卒

大塚の靴

斯界の權威!!!
自製編上靴 六圓
學生靴 女學生半靴 五圓
紳士靴 弊店自慢の流行新形
平田町 大塚製靴部 電話七七番

幕末剣士

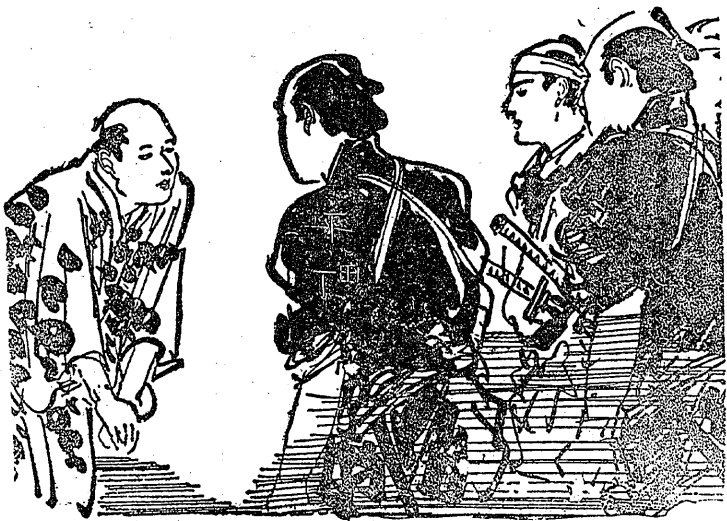
【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百九十九席 平手

愈々切り込み

平手造酒は八月の二十日の月を眺めながら
造「月は年経るも變化はないが人間は次第々に變り行き果ては美人も英雄も土に埋れ、一片の骨となる、まづ大悟すれば世の中は一ツの芝居だな、これに働らく人間は俳優のやうなものだ、それにしても今夜は大道具鳴物入りの立廻りをしなければなるまい」
云々と勢力富五郎が富「助五郎といふ座頭を相手にはげしい立廻りを一幕出させよう」
造「俺も久しぶりでこの忠綱の切味を試す」
と云ひながら腰のものを見た、繁藏は用意の酒を出して一同と酌交し笑ひ興じてゐた、その内に小舟木と云ふ所に着く、是から上陸して猿田原、塙などの村々を過ぎ飯岡の町へ入ると夜の二時頃、更けてゐるからひつそりとしてゐる、すると東の方から雲が出て月の光をさへぎり大分暗くなつて来た、助五郎の住居はこの街の真ん中にあつて妻と二人である、本宅は銚子にあるが何時も妾宅にゐる



新「お前は元吉兄いだな」
元「これは夏目の兄さんでございませうか」
「云つたがこれは助五郎の若い者」
新「助五郎どんは居るか」
元「今夜は不在でござんす何でございませう御陣屋の御用に就て成田まで参りまして」
新「不在だと、そいつは嘘らしな、お前の様子を見た所ではゐるやうだぞ」
元「全く、下在でございませう」
新「お前は酒を飲んでゐるな酔つてゐるぢやアねえか親分の不在に妾の所へ行き行く」
元「甚藏兄の所へ行つて泊ります」
と云つたがこの甚藏と云ふは助五郎の子分で屈指の人物
新「若い者は何人居る」
元「ヘエ、四五人居ります」
新「さうか、イヤ足を止めて氣の毒だ、今夜は助五郎どんから貰ふ者があつて、親分始め一同揃つて出て来た」
元「ヘエ、さうでございませうか、私は又喧嘩を持ちました、何分貰ひにお出でなすつたね」
新「ウムちと助五郎どんの出しにくい物だ」
元「ヘエ、金でございませうか」
新「ウム金で買ふ事の出来ねえものだ」
元「そんなものを親分が持つて居りますか」
新「親分に限らず誰でも一個宛は持つてゐる」
元「それは、何でございませう」
云々と新助は首を叩いて新「これを貰ひに来た」
元「なる程、これは出し難いものだ」
新「この近所に大分助五郎の若い者が居るとのこと、今夜繁藏が身内を連れて切り込んだから早く駆け付けて親分を助けろとさう云へ」
元「どうもそれは御苦勞様でございませう」
イヤ元吉度肝を抜かれた新「さア早く行きねえ、親

新「オイ若いの少し待つてくれ」
と呼び止めた
○「ハイ何ぞ御用でございませうか」
新「用があるから呼ぶんだまア此方へ来てくれ」
○「ヘエ今晚は」

分お聞きなされる通り助五郎は居るさうでございませう」
繁「さうか、それでは踏み込めぬで二十人打揃つて助五郎の住居に來た、五間門口で二階建入口が通りですからそれだけ空いて三方は築地塙で圍つてゐる、そこへ立つた夏目の新助が」
新「ヘエ今晚は一寸開けておくんないませう、銚子の本家から参りましてございませう」
云々と店に寝てゐた子分

子「誰だ、ウム宇吉か、何だつて今頃出て來た」
新「御陣屋から急に使ひが來たに就いてその手紙を持つて出て來まし」
子「それは御苦勞、今開けるよ……」

平 町 二 丁 目
三井タクシー
電話 八 五 番

毎度御ひいき

有難う御座います

江戸前都壽し始めました。

是非御試食を願います……

……出前迅速……

大蒲焼 仕出し部
折詰 田町魚 榮

電話四二四番

貸切の●●●

御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

江戸前料理 合巻

紅葉狩にはぜひ錦水の

折詰辨當を御供させて下さい

▼出前!迅速!▲

錦水 電話四五四番

高級貸切……

不二タクシー

電・32